

『この夏の星を見る』 辻村深月 KADOKAWA

辻村深月さんの小説最新刊が、早くも映画化！ 桜田ひより主演で絶賛公開中！

「コロナの年じゃなかったら、私たちはこんなふうになんか会えなかったから。どっちがいいとか悪いとか、わからないね。悪いことばかりじゃなかったと思う」。

2020 年度。コロナによってあらゆるものが奪われた、あの年の物語。いくつものままならない思いをした君たちに向けて書かれました。長崎の五島列島で家が旅館を営んでいて、県外からの客を受け入れているからと、友だちに距離を置かれた円華。渋谷の中1で、同学年の男子は一人っきりで、サッカー部を諦めて理科部に入部した真宙。その真宙らが、手作りの天体望遠鏡で星を捕まえるスピードを競う「スターキャッチコンテスト」に興味を持ち、例年は開催していた茨城県の高校の天文部に「中学生でもできますか？」とメールをしたことから、物語が動き出す。このコロナ禍で何ができるのか迷っていた高校のほうに飛びついたのだ。かくして、3校をオンラインでつないで、スターキャッチコンテストが開催されることに。コロナにも屈しない、感動の青春小説！

『YABUNONAKA ヤブノナカー』 金原ひとみ

文藝春秋

タイトルはもちろん、芥川龍之介の傑作「藪の中」から。

「最近のあらゆる告発文は、私たちの中に眠っていた過去の罪を照らし出してくれますよね。打ち上げ花火が上がって、同じ痛みを持っている人達が照らされた自分の古傷を見出す。あれは断罪すべき罪なんだと気づかされていく」。

文芸誌の編集長も経験したが、いまではすっかり枯れてしまっている出版社社員の木戸は、かつてつきあっていた女性から性加害を受けていたとネットで告発される。性的搾取をされていたというのだ。当時大学生で、編集者志望だった彼女は、大学の講師に木戸を紹介され、二十も離れた彼のことを好きになり恋愛をしていたと思っていたのだが、でもそうじゃなかったかもしれない、搾取されていただけだったのではと気づいたのだ。

『サイレントシンガー』 小川洋子 文藝春秋

おばあさんと二人で暮らす、まだ赤ん坊だったリリカは特別な環境で育てられた。 “内気な人の会” のメンバーが拡大してできた “アカシアの野辺” の雑用係におばあさんが採用され、リリカを連れて働くことを認められたからだ。 とっても内気な人々の集まりである “アカシアの野辺” の人々は、ほとんど喋らない代わりに、野辺だけで通用する、独自に編み出した指のサイン、指言葉とでもいうものを使っていた。 おばあさんが働いているあいだ、リリカは休養室の老介護人に預けられていた。 “内気な人の会” の最古参の相当な老人である。 彼が言葉を発することはなかったが、たった一つの歌を弱々しい声で何度もリリカに歌ってあげた。 彼女が生まれて初めて耳にした音楽は、沈黙の人が歌う子守唄だった。 言葉を話すよりも先に指言葉を覚えた。 それは「歌」を意味した。 小学校にあがって、老介護人が亡くなる時、リリカは彼のために夕方5時になると町役場から流れる『家路』、迷子にならず、正しいところへ帰り着けるための導きの歌を歌った。 それを聴いた誰もを安心させるその歌声は役場の職員の心を動かし、リリカの歌う『家路』を録音したものが、スピーカーから流されることになった…。

『謎の香りはパン屋から』 土屋うさぎ 宝島社

なんと上半期の小説のベストセラーランキングで、本屋大賞を受賞した『カフネ』に次いで堂々の第2位！ 思わず美味しいパンが食べたくなる、おしゃれなパン屋を舞台にしたミステリー！

マンガ家をめざしてる大学1年の市倉小春は、近所のパン屋でバイトをしている。 理由はいくつかあるが、なんと言ってもいちばん大きな理由は、売れ残りのパンがたくさんもらえることだ。 働き始めてからもうすぐ一ヶ月。 ようやく慣れてきたといったところ。 バイトを紹介してくれたのは、高校からの友人で同じ大学へと進学し、いっしょに東京から大阪にやってきたゆっこだ。 彼女にはとっても感謝しているが、もうすぐ彼女はパン屋でのバイトを辞めてしまうと言う。 掛け持ちで派遣のバイトをしていて、そちらに力を入れたいのだそうだ。 ライブ会場の人員整理やチケットのもぎりの仕事。 実は彼女は、2.5次元の舞台俳優の大ファンなのだ。 明日も二人で『想剣演舞』という舞台のライブビューイングを観に行く約束をしている。 ところが、誘ってきたのは彼女のほうだったのに、ドタキャンされてしまう。 理由はパン屋のバイトを先輩から代わってほしいと頼まれたからなのだそうだ。 そこ、バイトを優先する…？ 小春は、彼女の行動の不審な点を振り返り、謎を解決する！

『^{なんじ}汝、星のごとく』 ^{なぎら}風良ゆう 講談社

『**流浪の月**』に続く二度目の本屋大賞受賞作にして、ランキングを総ナメにした恋愛小説の大傑作が、横浜流星 & 広瀬すずのW主演で映画化決定！

舞台は瀬戸内^{あきみ}の小さな島。愛人のもとに父親が去って行ってしまった暁美。生まれてすぐに父親を亡くし、一時たりともに男なしでは生きられない母親に育てられた^{かい}櫛。「普通ではない」親に振り回され、苦しんできた二人は高3で出会い、同じ孤独を分け合える恋人になった。二人はともに島を出ることを望んでいたが、櫛が在学中に雑誌連載を決めマンガ家としての将来を切り開いて東京へ行こうとする一方で、暁美は父親の愛人の家に火をつけようとするところまで追い詰められてしまった母親を見捨てることができず、島に残ることになった。東京で夢を叶えてプロのマンガ家になり、作品がヒットしてちやほやされる櫛。両親が離婚し、経済的な不安から高卒で地元の旧態依然の会社に就職した暁美。対等だったはずの関係に生じた不均衡。暁美は、櫛に女の影を見、自分に退屈していることに気づく。自分に価値を見いだせず、侮られる程度でしかない自分が悔しい。本当に相手のことだけを愛していた二人なのに、すれ違ってしまう…。

「登場人物だけでなく、読む人の人生にも踏み込まざるを得ないくらい本気の恋愛小説が増えてほしいですし、私自身、これからも書いていきたいと思います」（著者）。

『**風のマジム**』 原田マハ 講談社

アート小説以前の作品がまたも映画化！ 伊藤沙莉主演！

「風に育てられた酒」ラム酒。ラム酒がサトウキビからできることを、あなたはご存知だったでしょうか？ ラム酒はサトウキビからできるけれども、それは中南米産で日本でできたものではないので、沖縄でも親しみを感じられていない。沖縄産のサトウキビでラム酒がつかれないものだろうか。そんな夢を実現した女性の実話が元になっている小説です。

那覇市の民間企業の一派遣社員だった金城さんは、社内のベンチャー制度に応募し、沖縄の原料を使用して世界トップレベルの品質のラム酒製造会社を実現し、社長にまで上り詰めます。当時ライターだった原田マハさんは、ラム酒造りに奮闘する彼女に魅了され、5年後に彼女の造ったラム酒が多くの人に飲まれるようになっていたら、小説に書いていいか尋ねたそうです。果たして5年後、彼女のラム酒は大評判となり、人気作家となっていたマハさんは約束通り小説にしたのだそうです。たいへんすばらしいエピソードではありませんか。

『プロジェクト・ヘイル・メアリー』上下

アンディ・ウィアー 早川書房

『火星の人』の映画化『オデッセイ』に次いで映画化！

コンピューターの声に起こされ、目覚めるとグレースは真っ白な奇妙な部屋にいた。裸でたくさんの管につながれ、ロボットアームに世話されて、ずいぶん長いあいだ眠っていたらしい。同じ部屋にはかなりの時間が経った死体が二つ。自分の名前すら思い出せないくらい記憶が朦朧としていたが、教師だった彼は「実験」をすることでここが地球ではないことを確信する。宇宙船＜ヘイル・メアリー＞号のなかにいるのだ。断片的に蘇る記憶。採取された未知なる生命体「アストロファージ」が太陽エネルギーを喰らいつくそうとし、地球は存亡の危機に瀕している。自分はそのアストロファージ問題を解決するために、別の太陽系へと派遣されたのではないかと。人類を救うことができるのは、自分ひとりだけなのだ。ところが、ヘイル・メアリー一号に思わぬ来訪者が…。

「なあ、きみはもうひとりじゃないぞ、バディ」「ぼくら二人ともな」。

お知らせ

◎夏休みのあいだじゅう好きなだけ本が借りられます！

◎読書感想文の課題図書は以下の3冊です！

『銀河の図書室』 名取佐和子

『夜の日記』 ヴィーラ・ヒラナンダニ

『「コード」のぼくが見る世界：聴こえない親のもとに生まれて』 太田ゆか

◎夏休みの図書館は、8/7（木）から8/18（月）までのあいだお休みします。

————— 今年ほとんど梅雨らしい雨の日がありませんでしたが、このまま梅雨が明けてしまうのでしょうか？ 梅雨が大キライなせーやさんとしては大歓迎ですが（紫陽花だけが友だちさ！）、7月の頭からのこの暑さはなんとかならないものなのでしょうか。

では、図書館で。